

令和3年度 さいたま市立与野南中学校 学校運営協議会による評価書

さいたま市立与野南中学校  
学校運営協議会  
会長 玉置 悌 助



1 学校運営協議会による評価の実施体制（第3回学校運営協議会【書面会議】）

(1) 構成人数 13名（学区内自治会長、学区内青少年育成会長、学区内民生委員、学区内公民館館長、  
中央区区民生活部長、PTA会長、PTA副会長、校長、教頭、学校地域連携コーディネーター）

(2) 実施方法

- ① 「資料」を委員宛に送付（2/21～）
- ② 意見を一度集約し、「意見集約表」として委員へ再送付（3/4頃）
- ③ ①と②を基に、仮承認の可否と最終的な意見を「書面表決書」として提出（3/4～11）

2 学校運営協議会による評価（協議会の委員の意見等）

- ・地域での評価は高く、運営状況は良好である。
- ・目標、実践、評価、反省など日々取り組んでいる工夫が感じられ、生徒の実態に合った教育活動ができています。
- ・生徒アンケートで学校生活の基本である「学校が楽しい」が、(1)(2)が多数を占めており、他の項目も同様であり、運営状況等は評価する。
- ・コロナ禍にあり、十分な活動ができなかったにも関わらず、学校一体となり運営されたことは、逆境にもめげず、自信にもつながったと思う。
- ・授業参観では、生徒が活発に意見を出し合いながら学んでいる姿を見て、学習意欲を高める工夫がされていると感じた。ネット等を通して、教育方針や教育活動が生徒の生き生きとした様子とともに紹介されていて、保護者・地域に広く情報発信されている。
- ・コロナ禍でありながらもしっかりとした感染対策を行って頂き、生徒一人ひとりが目標を持てる教育活動ができています。教職員の皆様に感謝申し上げます。
- ・南中は、先生方がしっかり学習面も生活面もご指導くださるので、安心して我が子を学校に通わせられる。OnとOffの切り替えをしっかりと教えて頂いているとも感じる。タブレットも、効果的に使われている印象である。
- ・コロナ禍で学校の実状が、紙面でしかわからなかったことが残念であるが、このこともこれからの時代を考える上で必要な経験だったと思う。
- ・地域の教育力を生かす方策を模索してほしい。
- ・地域との交流、連携など共に生徒の意見を取り入れ、自らの役割を果たすことを期待している。
- ・令和4年度についてもコロナ禍は続くと思う。基本的な対策を講じて、安心安全な学校生活を送れるようお願いしたい。
- ・次年度も今年度のように、コロナ禍は続きますが、継続して運営に携わってほしい。
- ・この2年間は、教育活動がいろいろと制限され大変だったと思う。来年度のコロナの状況は分からないが、学校のスローガンの実現に向けて、尽力していただきたい。
- ・3回目のワクチン接種が進むであろう令和4年度、保護者が一つでも多くの行事を参観できるようお願いしたい。
- ・もっと学校に訪問し、子どもたちと直接触れ合う機会を作りたい。
- ・中学校生活3年間のうち、2年をコロナ禍で過ごした時期3学年、コミュニケーションをとるのも難しい今日だが、人と人とのつながりの大切さをしっかり学んでもらいたい。きちんと相手の気持ちに寄り添える人間になってもらいたい。
- ・授業や各行事等の参観ができれば、もっと学校の運営状況について意見交換ができると思う。

学校運営協議会による評価を受けた学校の対応

- ・引き続き、コロナ禍における教育活動の可能性を探り、保護者参観の機会を増やせるよう工夫する。
- ・「地域、学校、家庭」の上手な連携の取り方について、校内の担当分掌で考察していく。特に地域の教育力を生かす方策を模索していく。
- ・タブレットの利用を中心としたICT教育の基本的なノウハウを、研修を通じて養っていく。
- ・人が社会で生き抜いていくために必要な「コミュニケーション力」を養うことについては、引き続き重点を置いて取り組んでいく。

さいたま市立与野南中学校長 吉原 誠



備考 A4用紙1枚程度に簡潔にまとめ、教育委員会に写しを提出してください。